

## 『心の内にある真珠』 ～悔い改める

マタイ13：44～50

イエスキリストはこの地上において、人々にはたとえ話をもって話されていました。ここでは畑、真珠、網のたとえが書かれています。それぞれが何を意味しているのでしょうか。畑は世の中において、キリストに宝（コロ2：3）を見出した人が集まる場所として教会を意味しています。網は人間を取る漁師になり（マタイ4：19）、人を救いに導く事を意味しています。今日は畑と網の間に入っている真珠について特に注目していきたいと思います。最初に真珠はどのようにできるのかをみていきます。真珠は真珠貝と呼ばれる貝の中に生成されます。貝そのものは弱いため、自分を守っていくために外套膜というところからカルシウムを分泌し、海水と反応させて、炭酸カルシウムを生成させます。これが貝殻になります。貝が生息している中で石などの異物が体内に混入してきます。その異物が貝の中に入ると違和感を感じます。そのため外套膜が異物についていき、真珠袋の中に異物を閉じ込めます。外套膜からカルシウムを分泌させ、異物を覆っていきます。それが何層にも重なり真珠となります。真珠の元は石や寄生虫などでした。しかし貝の中にある素晴らしい器官によって真珠が作られています。この真珠を見てみますと私たちの信仰生活とよく似ています。畑の中で宝を見出し、畑を買った私たちには、内側に真珠を探そうする心を与えます。真珠の最初は悪いものでした。同じように私たちの中にある短所や悪くするものに覆いをかけて、プラスに用いる事ができます。これはまさにイエスキリストのが行ったことではないでしょうか。私たちがイエスキリストに学ぶ事ができれば、私たちの中にある問題が真珠に変えられます。神は悪いものであっても、必ず良いものへと変えてくれます。心の真珠とは何でしょうか。私たちは常に探していなければいけません。「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。（マタイ5：3）」とあります。心が貧しいものは豊かさを願って探し求めます。私たちが探すのを止めるしまうと、成長が止まり衰えていきます。「また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにしり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから。（マタイ7：6）」とあるように意味が分からないと価値を見出せません。向上心を失うと真珠を必要とする意味がなくなります。悪魔は私たちがやる気や目標を見失わせる事をしてきます。聖書の真珠とは未知のもので、すぐに見つかるものではないけれど探し求めるものです。それは将来に対しての知恵です。私たちは未来が見えれば、今持っているすべてのものを売り払ってもその知恵がほしいと思います。私たちがとまってしまうと、神様から用意している真珠に気づかなくなってしまう。心の内にある真珠を見失わないために、追い求めるためにどのようにしたらいいのでしょうか。それは「悔い改める」事です。私たちは「悔い改め」と聞くと「また謝るのか」と思ってしまうかもしれませんが。本来の悔い改めとはまったく違います。なぜ「真珠」が「悔い改め」なのでしょう。「悔い改め」は「十字架」に関係しています。私たちの心の中にある真珠はどのように生まれたのでしょうか。それは私たちの罪や失敗から生まれました。その罪や失敗に対して悔い改めていけば、真珠として光輝いていきます。しかし悔い改めを忘れていると、心の中の真珠は大きくなりません。真珠は大きいほど価値があがり、人々を喜ばせます。悔い改めを忘れていると成長がありません。それは自らがどのように歩いていくのかが分からなくなります。「悔い改め」は「あの時〇〇しておけばよかった」という「後悔」とも違います。イエスキリストの良い知らせ（グッドニュース）である福音とはどのようなものでしょうか。（ルカ24：46～）「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」ここには「罪の赦しを得させる悔い改め」が伝えられると書かれています。私たちに悔い改めがなくなってしまうと福音が留まってしまう、心の内にある真珠が輝かなくなります。それはパウロが競争を走りぬく（Iコリ9：27～）事やイエスの身丈にまで成長する（エペソ4：13）事に反していることとなります。私たちの内にある真珠とイエスの真珠を比べてたらどのくらい違うのでしょうか。確認したい事は私たちの心に入ってきている「石」や「寄生虫」は真珠になっているかということです。これが本来の悔い改めです。私たちは悔い改める事を蔑ろにしてしまっているのであれば、悪魔の思うツボです。「悔いて改める」ことは「悔いて反省し後悔したまま」でいる事を指しているではありません。ヨハネ21章にはイエスがペテロに3度「私を愛するか」と聞いています。イエスはペテロを責めていません。質問をするイエスからペテロは自ら心を打たれて主の前に悔い改めました。これが本当の悔い改めです。イエスは人の罪を責めて、悔い改めを求めるような事をせず、自らの罪を悟り悔い改めることを望んでいます。イエスは罪を責める人ではなく、真珠貝のように外套で罪を覆う方です。私たちは日々主の前に出て悔い改めましょう。罪を悔い改めないと私たちの日々の生活も崩れていきます。エジプト時代に羊の血を鴨居に塗り死の霊から免れたように、私たちも十字架で流されたイエスの血によって死の霊から過越されます。自分が犯した罪、失敗を真摯に悔い改めていないと、同じ問題を繰り返し、成長のないクリスチャンです。神を見続けるには悔い改めがないと見ることはできません。「見よ。主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。（イザヤ59：1～2）」私たちと神とに罪による隔りがあると書いてあります。私たちは悔い改めによって隔りを取り除きましょう。私たちが新しくなりたいのであれば、悔い改めが必要です。私たちが変わりたいのであれば悔い改めしか方法はあります。悔い改めがないと成長がありません。人の成長にはアポトーシ

スを繰り返します。アポトーシスとは不要なものを自らで切り捨てることです。心にある不要なものを自らで捨て新しくならないといけません。私たちが古いままですと、私たちの周りの人たちも古いままになってしまいます。日々の生活の中で、罪を犯したままであれば、私の罪がイエスを殺していることになります。死人の中にいるイエスを見ないで、悔い改めをして復活したイエスを毎日見続けていきましょう。イスカリオテのユダはなぜイエスを売り渡したのでしょうか。それは人としてイエスを見てしまったからでした。キリストの持っている本来の真珠ではなく、自らが作り上げた救い主を表していくためでした。それは神の姿を人の姿へ引きずり下ろすことでした。私たちが理想とするイエスを作っていないでしょうか。それは復活した生きたイエスの姿ではありません。復活したイエスを見るためには悔い改めるしかないので。私たちが悔い改めを忘れ、罪があるまま生活していると歪んだクリスチャンとなってしまいます。外套が均等に覆われていないからです。私たちが360度どこからみても、輝いているような真珠にならないといけません。悔い改めを忘れた日から新生がとどまります。「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。(ヨハネ3：3)」私たちが真の悔い改めによって歩んでいきましょう。「主よ赦してください」と儀式のような悔い改めでは真の悔い改めではありません。ペテロのように自らで悔い改めていきましょう。私たちが①子供ようになる。私たちが罪を認めて主の前に素直に出ることが苦手です。悔い改めとは逃避や後悔することではありません。言い訳をせず、素直に主の前に出ればいいのです。悔い改めとは先手必勝です。神に責められる前に素直に謝っていけばいいのです。99匹羊をおいて1匹を探しに行く羊飼いの姿(ルカ15：4～7)がありますが、迷子の羊とは悔い改めが必要な羊をさしています。天では私たちが悔い改めてる事を喜んでいいます。自分にとって悔い改めはストレスではありません。私たちが助け出す神の方法です。子供のように素直になり、悔い改めていきましょう。②悔いは残らない(IIコリ7：8～10)悔い改めとは世の中から感じる悲しみとは違います。一時は悲しいかもしれませんが、悔い改めた後、もし後悔があるのであれば、それは真の悔い改めではありません。悔い改めをしたのであれば、新しく生まれたのです。それには悲しみが残ることはありません。神の御心にかなう悲しみは悔い改めにつながり、私たちの心の中の真珠を生まれさせます。③はじめに戻る(黙2：3～5)はじめの愛に戻っているでしょうか。私たちがどのように受けたのでしょうか。教会に来た時、心の中にはいろいろなもので一杯ではなかったのではないですか？イエスに出会って、心の中にあるものがなくなった爽快感を覚えているでしょうか。今、私たちの心にたまっているものはないでしょうか。感じているのであれば、はじめの愛に帰らなければなりません。いくら奉仕をたくさんしたとしても、心の中に罪がたまっていくと私たちははじめの愛から離れてしまいます。私たちが教会に来たのは「実が残るため(ヨハネ15：16)」です。私たちの心の中に真珠が輝く事を通して、周りの人々も神の前に悔い改めれば、新しく歩める事を知ります。悔い改めは救いの喜びに帰れる手段なのです。悔い改めていないとイエスキリストの愛から離れてしまいます。悔い改めは自分でしなければいけません。他人が悔い改めることはできません。十字架の愛を受けた私たちの責任です。日々主の前にでて、悔い改めていきましょう。悔い改めとは神の鞭ではなく、愛の外套です。それを着て、心の中にある真珠を輝かせていきましょう。(要約者：平澤一浩)